

考える力を育てる 国語科の教科書

●『小学生の国語』『小学生の書写』編集主幹 三浦和尚



みうら かずなお 1952年、
広島市生まれ。広島大学教育
学部卒業。17年の中学・高校
教員を経て、現在、愛媛大学
教育学部教授(国語教育学)。

1 新しく編まれた教科書

すでに中学校、高等学校の国語教科書については歴史も定評もある三省堂から、このたび『小学生の国語』『小学生の書写』が世に問われることになった。「辞書の三省堂」が、こういう形で学校教育全般のことばの教育に責任を持つことは、まさに「ことばの三省堂」への発展的変身を果たしたと言うべきであろう。

「改訂」でなく新しく教科書を作るといふ、いわばゼロからの出発の過程は、峻険な山に登るに似て、苦しさばかりの果てに喜びが生まれるといった様相であった。

しかしその結果、私たちは、今日の子どものたちの学びを豊かにするための、これまでとは異なる新しい教科書を提示できたのではないかと、いささかの自負を持っている。

2 考える力を育てる教科書

子どもたちの学力については、これまでも様々なことばで語られてきた。ある時は書く力や音声表現力が取りざたされ、ゆとりや生きる力が叫ばれ、またPISA型読解力など、従来とは異なる能力観が提示されたりもし

た。それらはその時その時の社会的必要感に基づくものであったろう。

しかし、本質的に国語科で行うべきは、文字や語彙などの基本的な知識・技能を豊かにし、最終的には「ことばで感じ、ことばで考える力」を育てることである。特に「ことばで考える力」は、人間はことばでしか物を考えられないという前提に立てば当然のことながら、しかしすべての人間活動につながる点で、今日的にもきわめて重要である。

『小学生の国語』『小学生の書写』は、確かなことばの力を育てることは言うまでもないが、何よりも、ことばで深く、豊かに考える子どもを育てるといふ点を最重要課題として編集された。

この教科書で、精神的に安定した、思慮深い子どもたちが育ってくれることを信じている。そしてその子どもたちは、人生における自己実現をはかる力をもつことになるであろう。

